



## RS ウイルス感染症

RSウイルスによる 急性の呼吸器(鼻から、のど・気道・気管支・肺までの器官)感染症です。



(外来での迅速検査の保険適応は1歳未満の方が対象です)

例年冬の時期に多くみられていましたが、2011年以降7月頃から報告件数の増加傾向がみられています。

大阪市の感染症報告件数 平成29年第33週(8月14~20日)ではRSウイルス感染症は第2位、第35週(8月28~9月3日)では第1位でした。→つまりかなり流行していたことになります!

2日~1週間(通常4~5日)の潜伏(せんぷく)期間の後に、鼻汁、咳などが始まり、その後さらに咳がひどくなり、咳のせいで眠れない、せき込んで嘔吐する、呼吸の際ゼイゼイという、などの症状が出現します。38~39℃の熱が出る場合があります。

25~40%の乳幼児に気管支炎や肺炎を認めるといわれており、中耳炎を合併することもあります。

1歳未満の乳児でミルクの飲む量が減ってきていると感じたら早めに受診しましょう。



ウイルスに感染したひとの咳やくしゃみのしぶき(飛沫ひまつ)が口に入る、



または 鼻みずやよだれを触った手指に触れる、またはその手が触れたおもちゃ・コップ・スイッチ・机などをなめるなどで感染します。



このウイルスには特効薬がなく、ワクチンもありません。治療の基本は対症療法です。

1歳未満、特に6か月未満の乳児、心肺に持病のあるこども、早産児が感染すると、呼吸困難などの重篤な呼吸器疾患を引き起こしやすく、入院のうえ呼吸管理が必要となります。

初感染の発症の中心は0から1歳児ですが、2回目以降の感染では かげ様症状のみの RSウイルス感染とは気づかれない年長児や成人が存在します。したがって咳やくしゃみなどの症状がある年長児や成人では可能な限りRSウイルスなどの流行時期でなくとも飛沫感染(咳やくしゃみのしぶきでうつること)対策として マスクを着用することが大切です。こどもたちが日常的に触れるおもちゃや てすりはこまめに掃除し、みんなで手洗いうがいをこころがけましょう。



症状が軽減してきたら



熱がさがっているうえで、睡眠がしっかりとれるようになり、食欲もすっかりもどったら登園できます。



## おしらせ

平成29年度MRワクチンⅡ期対象者は平成23年4月2日~平成24年4月2日生まれの方です。